群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表①　令和3年度版

（様式1）

羅針盤			方策	第1回　点検・評価			第2回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
Ⅰ　３Ｆ精神に根ざす活力ある高高生を育成し、活気ある学校づくりを進めていますか。（全体・生徒部）	1　生活規律を確立する。	① 各学期１回挨拶週間を設定する。 ② 式展時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ ＳＮＳに関わるトラブルを無くす。	・挨拶をする習慣を身につけさせるために、全職員をあげて挨拶運動を行う。 ・TPOを弁えた行動を理解させ自発的に行動できるよう指導する。 ・他者を思いやる行動や言動を身につけさせ、ＩＴ機器の適切な利用について指導を徹底する。	A B B	A B A	・登校時指導での挨拶、挨拶週間でさらに呼びかける。 ・各行事でTPOを意識させた行動を促す。 ・IT機器の適切な使用・管理を徹底するよう定期的に啓発する。	B B B	B B B	・生徒との挨拶運動など生徒会と協力しながら通年で定期的に実施する。 ・職員からも積極的な挨拶を心掛ける。 ・IT機器(Chromebook)の紛失・トラブルの案件はなかったが、自己管理の徹底を継続的に呼びかけていく。
	2　交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故０件。 ⑤ 職員・生徒で定期的に交通安全指導を行う。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。	・交通ﾙｰﾙを遵守し危険予測のできる自転車運転を身につけさせる。 県下の動向を踏まえて、組織的な交通安全指導を行う。特に、自 ・転車通学者のヘルメット着用の指導・周知を徹底する。 自転車駐輪場所の遵守、自己管理の徹底を図る。	B A B	A A B	・ポスター掲示等、啓発活動を定期的に行う。 ・登校時はほぼ達成。下校の着用率が下がるため、下校時指導も実施していく。 ・ヘルメットの自己管理を促す。	A A A	A A A	・ポスター掲示等、啓発活動を定期的に継続的に行っていく。 ・登下校とも挨拶運動と兼ねて指導することができたので継続していく。 ・ヘルメット紛失等の案件はなかったが、自己管理の徹底を継続的に呼びかけていく。
	3　教育相談業務を充実させる。	⑦ 定期的に教育相談・生徒部会議を実施し、合わせてＳＣ等を有効活用するためのマネジメントを教育相談係を中心に行う。 ⑧ いじめの発生防止に努め、発生した場合は組織的に対応して100%解消する。	・教育相談会議・生徒部会議にて情報交換を行い、チームでの支援体制を確立し、ＳＣの紹介及び面談計画の作成や外部機関への連絡など担任・学年が必要とする支援を行う。 ・本校のいじめ防止基本方針にのっとり、生徒の人間関係の健全な構築を心がけて、いじめの未然防止に努める一方で、発生したときは組織的に迅速に解消する。	A A	A A	・諸会議での情報交換を今後も徹底していく。 ・いじめ防止対策委員会を迅速に開催し、組織的に対応することを徹底していく。	A A	A A	・諸会議での情報交換を今後も徹底していく。 ・いじめ防止対策委員会を迅速に開催し、組織的に対応することを徹底していく。
	4　生徒会活動を充実させる。	⑨ 定期戦75回大会の勝利・翠巒祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	・生徒会総務及び実行委員等と連携を図り、意思疎通を密に図りながら、各行事の指導・助言を行う。 ・部・部顧問との連携を強化し、施設等の効率的な活用を推進しながら県内入賞種目を増やす。 ・ボランティア活動を全校で積極的に取り組めるよう、生徒会総務を中心に活動を進め、地域と連携を図っていく。	A A B	A A B	・定期的に会議を開催し、職員との連携を強化していく ・部活動代表者会議等を開催し、課題を解決していく。 ・ボランティア活動等何ができるか模索していく。	A A C	A A C	・生徒会等と定期的に会議を開催し、職員との連携をより強化していく ・部活動代表者会議等を開催し、課題を解決していく。 ・生徒会等と連携しボランティア活動等何ができるか模索し実施していく。
Ⅱ 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。（保健環境部・事務部）	5　健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。	・「保健だより」やその他の健康関連情報を適宜発信する。 ・生徒の健康状態・定期健康診断の結果を踏まえ、必要に応じた処置や受診指導を行う。	A B	A B	・コロナ禍で多くの生徒が自身の健康管理に努めているが、気を緩めることなく声がけを続けていく。 ・引き続き必要な情報を発信し、適切な指導を行う。	A B	A B	・多くの生徒が自身の健康管理に努めコロナ対策を行っていたこともあり、現時点では集団感染を起こさずに済んでいる。 ・引き続き必要な情報を発信し、適切な指導を行う。
	6　健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が８０％以上である。	・職員及び生徒保健委員による校内巡視や環境測定を定期的に実施し、衛生的で安全な学習環境を維持する。 ・冷暖房や照明等の適切な使用の指導、及び施設・設備の点検・整備を行い、必要に応じて机や椅子などの入れ替えに対応する。	B A	B A	・職員および生徒による校内巡視を強化する。 ・コロナ対策と併せて学習環境の整備を引き続き進めて行く。	B A	B A	・職員および生徒による校内巡視を適宜実施できた。 ・コロナ対策及び学習環境の整備を引き続き進めていく。
	7　校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。	・清美委員によるゴミの分別指導をさらに充実させ、家庭内から持ち込んだ物のゴミの持ち帰りを徹底させる。	B	B	・ゴミの分別および減量に関して職員と生徒で意識の差があるが、地道に指導を続けていく。	B	B	・ゴミの分別および減量に関して職員と生徒で意識の差はまだ見られるものの、徐々に成果は表れてきていると感じる。引き続き地道な指導を続けていく。
	8　防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が９０％以上である。	・防災避難訓練当日だけでなく、日頃から防災意識を高める。	B	A	・災害に対して危機意識を持つ生徒の割合が97%と高く、防災訓練でも成果が表れていた。引き続き指導を徹底したい。	B	A	・災害に対して危機意識を持つ生徒の割合が年間を通して96%と高く、防災訓練でも成果が表れていた。引き続き指導を徹底していく。
Ⅲ　ＰＴＡ・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。（広報渉外部）	9　ＰＴＡから信頼される学校を目指す。	⑱ ＰＴＡ総会の出席率が６０％を超える。 ⑲ 学年保護者会に出席率が９０％を超える。	・ＰＴＡ総会への積極的な参加を促し内容の充実・発展に努める。 ・学年保護者会への積極的な参加を促し内容の充実・発展、保護者にとって有益と思われる情報の日常的発信、保護者の声を拾うことに努める。	B B	B B	・PTA総会では書面表決の返信が84%であり、関心の高さがうかがえる。 ・学年保護者集会の出席率は、1学年が87%、3学年が85%であり、目標には届かなかった。2学年はオンラインで実施した。今後も広報に重点を置く。	A B	A B	・2年続けて書面表決だったので、来年度もどのように開催していくかを模索する必要がある。 ・感染防止対策を行いつつ、オンラインも取り入れての実施も検討していく。
	１０　同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業で行うともに、内容の充実・発展に努める。	・同窓会報や理事会等で学校の現況を積極的に発信するとともに幅広く同窓会委員の声を拾うように努める。 ・創立記念講演会を充実したものにするとともに「先輩教えてください！」事業の絶えざる改善及び発展に努める。	A A	A A	・常任理事会等で学校の現況を報告し、同窓会からも支援していただいている。 ・創立記念式典は実施しなかった。「先輩教えてください！」は41の事業所の協力を得て、アンケート結果も概ね肯定的であった。	A A	A A	・同窓会理事会等で，双方向のやりとりが行えた。 ・「先輩教えてください！」はSSH部の協力の下、円滑に実施できた。
	１１　地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠巒セミナー」に地域の方々の5人以上の参加を実現するとともに、内容の充実・発展に努める。	・地域の方々に本校の存在意義を認識してもらうともに「翠巒セミナー」などの行事を地域の方々にも周知する。	B	B	翠巒セミナーは、中止の方向で検討している。代替案を検討する。	A	A	・翠巒セミナーは今年度は中止となった。オンラインを含め実施方法を検討していく必要がある。
	１２　情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Ｗｅｂページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 常にＷｅｂページを最新の情報に保つ。	・機会ある毎に、モラルやセキュリティに関する情報を職員に提供する。 ・各部署に情報提供を呼びかけるとともに、行事ごとにＷｅｂページを更新する。	A A	A A	・随時、情報を提供できている。 ・常に最新の情報をアップできている。	A B	A A	・一人一台端末の環境が整ったこともあり、今まで以上に情報モラル・セキュリティを徹底する。 ・Webページを最新の状態に保ち、情報発信に努める。
Ⅳ 質が高く、内容が豊かな「力のつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。（教務部）	１３　適切に授業時間を確保し、力のつく教育課程を編成し実施する。	㉕ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の、年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の最終調整と授業時間割を確定する。	・行事等における臨時時間割の編成・曜日間の授業の入替え・授業カット時のローテーションを、年間を通して計画的かつ円滑に実施し、令和４年度新教育課程への円滑な移行をする。	A	A	職員アンケートでは授業時間確保に努力していると感じるが、強く感じているとある程度感じているで100%であった。前期は分散登校もあったが、後期時間割で、継続して授業時間確保に努めたい。令和4年度の新教育課程の見直しを行った。来年度に向けて、観点別評価の研究も進めたい。	A	A	・職員アンケートでは授業時間確保に努力していることを強く感じる、ある程度感じているで100%であった。新教育課程、55分授業、観点別評価等新しいものに対して、さらなる研究を進めたい。
	１４　校内諸活動計画の調整を行う。	㉖ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止といった事態を起こさないこと。	・学年・ＳＳＨ部・進路部・生徒部との連絡を密にし、学校行事と諸活動を充実した意義あるものにするとともに、授業時間を適切に管理する。	A	A	管理職、各分掌・各学年との連絡は密にしている。新型コロナウイルス感染状況にも対応し、行事や諸活動が授業をさらに生かすものになるよう、適切に管理している。	A	A	・管理職・各分掌・各学年との連絡は継続して密にしている。授業時間を適切に管理している。緊急事態にも関係部署等と連絡を密にし、対応している。
	１５　教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉗ 教員１人あたり年２回以上実施し、クロスカリキュラムは１回実施する。 ㉘ 新しいシラバスを評価する生徒が80%以上である。	・教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を推進する。 ・シラバスを日常的に活用する。	B B	A B	・授業改善が推進されていると強く感じているとある程度感じているのアンケート結果が96%であった。 ・シラバスは進度に応じて活用し、また、クロスカリキュラムの授業参観・指導方法の研修も推進していく。	B B	A B	・授業改善が推進されていると強く感じているとある程度感じているのアンケート結果が96%であった。 ・新教育課程科目のシラバスを改訂し、また、SSH部との連携のもとクロスカリキュラムの授業参観・指導方法の研修も推進していく。
	１６　成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉙ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。	・教務関係業務について見直しを進め、ミスの起こらないようデータ処理の確認を複数人で行うとともに、広報部との連携を密にする。	A	A	教務内にいる情報課の職員と連携し、成績処理を行っている。授業時数のカウント、教科の評価、分散登校の出席停止については、丁寧に処理を行う。	B	B	教務内にいる情報課の職員と連携し、成績処理を行っている。ミスがあった場合は、原因を究明し、過ちを繰り返さない。

群馬県立高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表①　令和3年度版

（様式1）

羅針盤			方策	第1回　点検・評価			第2回　点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
Ⅴ　３年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。(進路部)	１７ 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	㉚ 学習時間の増加 部で活動中：平日最低2.5時間 部活引退後：平日最低3.5時間 ㉛ １年次：志の明確化 ２年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 ３年次：受験大学の確定 ㉜ 志と夢の明確化とそれを叶えるための具体的道筋の理解 ㉝ 自己肯定感を高め、夢を叶えるために自ら学習に取り組む	・各授業で、学ぶ意味を共に考え、生徒の意欲を高める。 ・各進路行事・講演会の質を高めるとともに、その意味を正しく伝え、志を育て、夢を育む。 ・各種進路行事への参加を促し、社会に対する問題意識を高める。 ・面談を効果的に行い、助言を与えながら、生徒に自信を持たせる。	A B A A	A A A A	・学ぶ意味を教え、自ら学べる生徒に変えていく。 ・コロナ禍もあり，行事がやりにくい状況ではあるが，その中で工夫をして行いたい。 ・各行事の目標の明確化と共有を図る。 ・個別面談を重視する。	B B A A	A A A A	・ただただ「学習時間を確保せよ」では、学習時間は増えない。 ・SSH活動と連携したり、学ぶ意味を伝えたりしながら，進路への志を明確にすることが重要であろう。 ・全体としては、集会や進路のLHRの時間を確保する ・個別としては面談を充実させることで、さらなる向上を図りたい。
	１８ 学力・進学実績の向上を達成する。	㉞ 年間授業観察５回、授業アンケート平均点の向上。 ㉟ 模試の成績向上 １年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ２年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６５ ㊱ ３年次：英数国総合ベネッセ偏差値　６２ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上。 シラバスの利用率100%。	・教科指導力を向上とやるべきことの精選。 ・現状分析を踏まえた共通テスト等へのと迅速な対応と３年間を見通した指導の推進。 ・教科・学年・進路部での意思統一とシラバスの活用。	A B A	A B A	・教師側が向上心を持ち続け、切磋琢磨し精進する。 ・教科内での方針確認を頻繁に行い、同一歩調で指導する。 ・授業力の向上と教科担当者と生徒の面談のさらなる充実を図る。	A A A	A A A	・授業アンケートの結果を真摯に受け止め、学ぶ側の視点に立って授業改善を常に図る。 ・各学年とも、学年の教科内、あるいは他教科間での方針確認を頻繁に行う。 ・生徒にある程度の負荷をかけることは必要だが、行き過ぎると疲弊してしまうので、上手にバランスを取るという方針を、進路部と学年が連携して行う。
Ⅵ　ＳＳＨ事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。(ＳＳＨ部)	１９ 課題研究やクロスカリキュラムは全職員体制で取り組む。	㊲ クロスカリキュラムの実践事例が24事例以上。 ㊳ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取組みをしたことのある教員が80%以上。	・クロスカリキュラムの目的や意義として課題発見・課題解決力の向上、国語力・論理的思考力の向上があることを研修等で周知する。 ・教務部と連携して授業改善研修を行い、クロスカリキュラムの事例を示す等、段階的にクロスカリキュラムを全体で取り組む基盤をつくる。	B B	B B	・1学期の段階で7事例が実践された。 ・年間で3期に区切って、教務部との連携をした授業改善研修を実施しており、さらなる実践の蓄積が期待される。	A B	A B	・2学期までの段階でSSH理科の実践と教務部の研修での実践を含めて24事例が実践された。 ・職員アンケートの結果でも70%の教員がクロスカリキュラムを実践した。
	２０　サイエンス・プロジェクトⅠ・Ⅱβ・ⅢにおいてR-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	㊴ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究Ⅰ・Ⅱβ・Ⅲの指導に職員があたる。 ㊵ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が80%以上である。 ㊶ ３学年全体で研究ポートフォリオの作成を通して、探究の手法を整理できた生徒が70%以上である。	・1・2学年においてはルーブリックを早期に提示し、指導における評価規準を共有するだけでなく、課題研究の方法論も含めて協議の場を研修等で設けることを定例化する。 ・1学年においては、S・ＰⅠやSSHセミナーⅠを活用して、R-PDCAサイクルの調査の段階で文献のまとめ方、科学的思考の表現力の育成を行い、その後、問いの設定から仮説の検証までの一連の流れを生徒には経験させる。2学年においては、「先輩、教えてください！」担当と「修学旅行」担当と連携して、1学年の課題研究の実践を継承しながら、社会課題をデータサイエンス等を活用して解決するR-PDCAサイクルを実践する。 ・3学年においては、研究ポートフォリオを作成する中で、2年間の課題研究を振り返り、課題発見・課題解決の手法や自らが探究した事項を整理する。	A A A	A A A	・1学年では2週間に1度のS・ＰⅠの打合せを行い、指導方法や指導内容の共有を図っている。 ・2学年及び3学年では学習指導案等を用いて実践内容の共有を学年で共有している。特に2学年では「先輩、教えてください！」事業を通して社会課題を事前調査して検証する活動を行うことができた。 ・3学年の生徒のうち研究ポートフォリオを作製することができた生徒は全体の83%であった。	A A A	A A A	・1学年でのS・ＰⅠの打合せ会議、2学年及び3学年での学習指導案等を用いて実践内容の共有を継続できた。 ・1月27日の成果発表会をもって，1学年はＲ－PDCAサイクルの一連の流れを経験し，2学年は社会課題の課題研究をＲ－PDCAサイクルを踏まえて年間を通じて実践できた。 ・3学年では研究ポートフォリオをキャリア教育に活用することができた。 上記の取組は今後も継続して実施していく。
	２１　SSHクラスのサイエンス・プロジェジュトⅡα・Ⅲにおいて、理数分野のR-PDCAサイクルを実践することで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を深化させる。	㊷ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PDCAサイクルを一巡できている。 ㊸ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。	・2学年においては、研究スキル習得講座を実践し、そのスキルを担当者間で共有し、随時指導できる体制をつくる。 ・課題研究Ⅱ・Ⅲの実践においては、まず予備実験を早期に実践させ、研究の具体的なイメージを生徒に持たせる。また、定量的な測定を行い、妥当性を考察できるように専門的な文献調査や統計学の活用に関する指導を外部機関と連携して実施する。	B B	B B	・研究報告書を完成させた段階では7班中6班のチームがＲ－PDCAサイクルを1巡して研究を完遂できた。 ・統計学を用いることできた班は少なく、データ整理の可視化や妥当性の指導を重点化する必要がある。	B A	B A	・2学年SSHクラスでは，探究スキルを担当者間で共有し，オンタイムで統計処理の指導を行う。 ・データサイエンス関して群馬大のコンソーシアムに参加し、その技能に関する連携講義を実施し、今後も継続する。
	２２　スーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㊹ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に100名程度の生徒が参加できるようにする。	・スーパーサイエンス部の活動の案内を全生徒に提供するだけではなく、各立場（担任、教科担当、部活動）からも参加を働きかけてもらうよう依頼する。	A	A	・オンラインでの活動を実施したため，夏季休業中までの課外活動でのべ90名程度の生徒が参加をすることができている。今後も課題活動に参加できる生徒を増やすことができると期待される。	A	A	・オンラインでの実施は生徒の参加ハードルを下げる効果があるため、今後も継続して実践していく。
Ⅶ　活字に親しませて読書習慣を育むことにより、人間性を豊かにするとともに知力を向上・深化させていますか。（広報渉外部）	２３　生徒の読書習慣を早期に育成する。	㊺ 貸出冊数が２０００冊を超える。 ㊻ 月平均３００人以上が図書館を利用する。	・オリエンテーション等で読書指導を行う。 ・『群青』を活用し、読書感想文コンクールへ意欲的に取り組ませる。書庫の整理を定期的に行う。	A B	B B	・教師の側にも読書の励行を促す雰囲気づくり。 ・『群青』を改訂し、同じ本による感想文のパターン化を防ぐ。	C B	B B	・職員に対しては読書の励行以前に、総合的な働き方の改革も視野に入れてゆく必要がある。 ・改訂時の編纂の際の選書意識を高める。
	２４　図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊼ 多読者・多読クラスへの表彰。 ㊽ ビブリオバトル県大会優勝。	・諸企画への一般生徒の参加を促進する。各教科の授業内容を意識し、適宜連携する。 ・読書アンケートによる読書実態調査を行い、選書を充実させる。	B B	B B	・適切な感染防止対策を講じた上で、広報活動を活発化する。 ・リクエストのシステムを周知させる。	A C	B B	・本だけに限らない情報ステーションとしての機能を模索する。 ・新着図書案内の充実。
	２５　図書委員会の活動を充実させる。	㊾ 「図書館便り」の月１回発行。	・適切な貸出、返却の指導を行う。「図書館便り」及び「図書館報」を発行する。	A	A	・告知だけでなく、読みたくなるインフォメーションづくりを心がける。	B	B	・IT機器では得られない、本ならではの魅力を広報する。
	２６　ＳＳＨ課題研究論文の作成を支援する。	㊿ ＳＳＨ関連図書を１００冊以上収蔵する。	・ＳＳＨ関連図書の整備と活用促進を図る。	B	B	・SSH部との連携を強化する。	B	B	・webと書物との情報の重みの違いを実感させる。
Ⅷ　教育のデジタル化に努めていますか。（情報課）	２７　ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	(51) ＩＣＴ端末を用いた授業が８０%以上である。 (52) ＩＣＴを活用した授業に生徒の８０%以上が満足している。	・ＩＣＴ端末の効果的な利用方法について職員研修を実施する。 ・全ての教員が各自の授業の中でＩＣＴ端末を用いた有効な指導を立案して実践する。	B B	B B	・クロスカリキュラムの一環としてもICT端末の使用を取り入れている。 ・授業で実践している教員数、生徒の満足度の把握に務める。	B A	B A	・ICT端末の効果的な利用方法について職員間で情報交換できる機会を設ける。 ・授業でのICT端末利用を推進していく。
	２８　ＩＣＴを活用した業務改善を行っていますか。	(53) オンラインによるアンケートを年３回以上実施している。 (54) オンラインによる通知の割合が５０%以上である。	・ＩＣＴ端末を用いて簡単にアンケートに答えられるフォームを作成して利用できるようにする。 ・極力紙媒体からデジタル通信への変換を図る。	A A	A A	・各種アンケートや健康観察記録などをGoogleFormsでの入力に変更した。 ・一斉メール配信を活用できている。	A A	A A	・次年度も随時GoogleFormsを活用していく。 ・生徒への連絡などにオンラインを活用していく。